

ほうじょうじ  
法城寺

真宗興正派慧山法城寺



天保年間（江戸時代）以来の庵でした。  
大正の末期、寺嶋信正法師が長炭からこの庵に居をうつしました。  
昭和3年に本堂を建立し、昭和21年興正派寺院として申請し、昭和22年  
11月20日に法城寺の寺号が認可されました。

このお堂は信正住職の父、大工の棟梁 寺嶋音次さんが長炭小学校  
校舎の一棟を購入し、資材を地域の人たちの協力で長炭から運び、ここ  
室塚で築かれたそうです。今も本堂として残っています。

境内の山側に鐘楼が建っています。鐘は初代信正住職の寄贈、楼は  
二代千慧住職の世話で地域の人たちが建てたものです。除夜の鐘が毎年  
鳴らされています。地域を愛し、地域の人たちに慕われた寺嶋信正住職  
の功德が偲べれます。

本尊は阿弥陀如来。平塚、室塚、俊正地区持ちの墓地を管理していま  
す。

本堂前の石の手水鉢（ちょうずばち）には、天保二年（1831年）世話  
人 若講 と刻まれています。